

(公財) 米盛誠心育成会だより 第26号

働き方改革に思う

理事長 米盛庄一郎



安倍内閣が進めた経済政策である「働き方改革関連法」が来年4月から順次実施されます。この法案は働き方の抜本的な改革により、企業文化や風土も含めて変えようとするもので、多様な働き方を可能とし、一億総活躍社会の実現のため、長時間労働の是正・副業解禁など女性や若者が活躍しやすい環境整備が柱となっています。ワークライフバランスの実現や労働生産性の改善を促進し、賃金の上昇と需要の拡大により経済と成長と分配の好循環が形成されることを目指しています。電通の長時間労働による新入社員の内殺がこの法案成立のきっかけですが、以前の「ゆとり教育」問題とダブってしまいません。

女性の陣痛を「LABOR」と訳すのに文化の違いを感じます。日本では労働は大義務のひとつなのです。子供達の成長過程での「教育」は働くための挑戦・修練・鍛錬であり、この過程を経て社会人となりさらに「働く」ことで挑戦・修練・鍛錬していくのです。我が国は独自の文化の中で今の日本を築いてきました。西洋の良いところは取り入れ、今の時代に合った働き方を目指したいものです。

(公財) 米盛誠心育成会は今後とも日本独自の働き方実現のために、奨学金・研究助成金等の事業を継続してまいります。

平成30年度採用の奨学生

奨学金受給希望者の中から、所属学校等からの推薦書及び選考委員による面接の結果、6名が決定し、6月23日採用通知交付式を行いました。米盛理事長から採用決定書の交付と祝辞があった後、竹元選考委員、先輩奨学生の鶴田さんから祝いや励ましの言葉をいただきました。財団発足以来の採用者は、375名になりました。

鹿児島工業高校1名、鹿児島工学院専門学校2名、鹿児島工業高等専門学校1名、鹿児島大学留学生2名

現在「ゆとり教育」を見直し授業時間を増加し、考える力やプレゼンテーション能力の向上を目指しています。しかし一度落ちた学力は簡単には戻らず、世界中での位置は先進国の中で下位に低迷したままです。日本の経済力が今回の改革法案で落ちてしまうのではないかと危惧しています。

「働く」の英訳「LABOR」の意味は①生産活動・労働・骨折・苦心 ②仕事・務め ③労働者 ④出産・陣痛 等とあります。西洋文化では労働は苦痛であり、



奨学生採用通知書交付式

平成30年度研究助成金交付団体が決定

今年度の研究団体への助成金は、次の7団体(425万円)に決定し、7月18日鹿児島大学、鹿児島工業高等専門学校において、米盛理事長から各団体代表者へ助成金目録の贈呈を行いました。

また、昨年度からの継続分5件には300万円が決定し、今年度の助成金総額は725万円となりました



鹿児島高専で贈呈式



鹿大学長室で贈呈式

\*「霧島連山硫黄山周辺噴火に伴う河川・土壌汚染対策に関する緊急総合調査」(霧島連山火山活動に伴う緊急総合調査グループ)

奨学生からの便り(抜粋)

鹿児島工業高校3年 福留裕介



今年、父が再雇用として勤めていた会社を退職となり、これまでより経済的負担が大きくなるうとしていた時に、担任の先生から奨学生募集の話頂き、申請しました。書類選考・面接を経て採用を頂いた段階で、奨学金を頂くという事に責任を感じ、不安もありましたが、このチャンスが無駄にすることなく、将来、鹿児島に貢献できるように、残りの高校生活でたくさん事に挑戦していきたいです。私はまだ具体的な進路先をはっきり決めていませんが、陸上競技とものづくりの仕事の両立できる環境で働きたいと思っています。高校入学後、競歩を始めました。将来、鹿児島のものづくり、スポーツの発展に貢献できるように、より学業に励み、挑戦すること、努力することを忘れず、自分自身がみんなの手本となるような行動と態度で日常生活を過ごし頑張っていきたいです。

鹿児島工学院専門学校2年 小山田竜馬

奨学生に選んで頂いたことでアルバイトの時間を減らすことが出来、空いた時間で様々な活動に取り組んでおります。まずは福祉住環境コーディネーター2級の資格勉強や住宅の設計コンペの作品作りなどに良い結果が出せるよう頑張りたいです。

今年度は2級施行管理士やパス検定1級などの資格取得に力をいれ、県内の企業へのインターシップなどに、積極的に参加実現出来るよう何事にも自ら取り組む姿勢を忘れず、日々努力し米盛誠心育成会の奨学生として自覚ある行動を心がけ感謝の気持ちを忘れずに勉学に励みます。

鹿児島工学院専門学校2年 柿内美羽

給付式の日には米盛庄太郎立像を見に行きました。この方々のおかげで私はこのご支援をいただけるのだと感謝の気持ちを持ちました。

私の目標は、来年の二級建築士と福祉住環境コーディネーターやパス検定に合格する事です。どちらも授業では行わない分野で、パス検定に関しては絵の技術が問われます。絵を描くことが苦手なので、この検定をきっかけに苦手を、将来役立てていけるように努力したいです。

今年ボランティア活動の役員を務めることになり、良い体験をさせてもらっています。コンペにも力を入れていますが、考えている時間はとても楽しくあつと言間です。作業を進めていく上で大きな壁に直面することもありますが、やると決めたからには最後までやりとげ、自分の経験値を高めていきたいです。

奨学金のおかげでアルバイトの日数を減らし、勉強の時間に充てる事ができることに感謝し、大好きな建築の勉強を人一倍努力し、有意義な学生生活にしていきたいです。

鹿児島工業高等専門学校4年 松下静香

鹿児島高専は5年制ということもあり、なぜこの学校にきたのか、何をしたいのかを見失いがちでしたが、採用通知交付式のおかげで改めて将来について考えることができました。このような機会をくださったことに感謝しております。

私は今、土木系・建築系で学んでいる学生を中心に全国の高専生が参加するコンペに向けて、アイデアを練っています。私の目標は、「空間デザイン」の部門で予選を通過し、本選へと進むことです。

テーマは、世界文化遺産に登録された集館です。下田町にある関吉の疎水溝から仙巖園まで及んだ水路を原動力として利用していたことをヒントに、循環型エネルギーのまちづくりを計画しています。



奨学生に応募するにあたって、郷土愛について作文を書いたことがきっかけで、改めて鹿児島について深く考える良い機会となり、鹿児島のすばらしさに気付かされ、歴史にも興味を湧き始めました。

交付式で、米盛理事長にお祝いの言葉をいただき、責任の重大さを感じました。それと同時に建築に対する情熱も湧いてきました。

米盛誠心育成会の方々やお世話になっている方々に喜ばれる報告ができるよう、日々、勉強に励んで参ります。

◇ 鹿児島大学2年 朴 珍錫(韓国)

米盛誠心育成会の奨学生に採用され、感謝の気持ちでいっぱいです。私は日本で数えなくらいのお世話になっております。最初、鹿児島大学に入学面接のために鹿児島に初めて来ました。本当にドキドキしながら面接日3日前に来て自分なりに面接準備をしながら、必ず合格したいと思いましたが、なぜなら、建築という学問を実際に日本に来て学びたかったからです。あの時鹿児島大学で不合格したら韓国で通った大学に帰るしかなかった状況でした。しかし、本当に運が良かったので合格が決められて鹿児島大学に入学させていただきました。合格が不合格か結果が発表される日に私の名前が載っているのを見て、とてもとても喜びながら親に伝えた日が今も思い出します。

米盛誠心育成会の奨学生として採用されて本当にありがたい心を持っていきます。交付式の時、お祝いのご言葉をくださった鶴田さんの話を聞いて本当にすごい奨学生だと思いがちですが、逆に私もあのようになれるのかという気がしました。そのため、米盛誠心育成会の奨学生としてご迷惑にならないように今よりなおさら勉強しないと行けないと感じました。奨学生として恥じることのない態度をとるようにしっかりとします。

◇ 鹿児島大学4年 ナディア アディブラセティオ(インドネシア)

米盛誠心育成会の奨学生として採用され、とても貴重な機会をいただきました。この奨学金は授業料及び課題に必要な模型材料や参考書などに利用させていただきまします。

私の両親は母国のインドネシアで生活しており、父が経済面を一人で支えてきました。しかし去年父は仕事を引退し、私と兄の二人に仕送りをするのが困難になりました。両親の負担を減らすため、私もアルバイトをしています。奨学金のおかげでサークル、留学生会などの学外活動と重なっていますが、勉強と学外活動を両立することができると頑張ります。

◇ 建築学科では、構造、環境、設計の分野について基礎を勉強していますが、「設計」の分野に強い関心を持っています。設計は単なる図面を作成することだけでなく、その建築を使う人の気持ちや必要な導線など、これまで見えなかった面白い面に気付いたからです。将来、日本で働き、設計に関わる仕事をしたいと思っています。

日本文化の理解や日本人との交流を深めながら、建築の知識や技術などを身に付けたいと思います。そして、米盛誠心育成会の奨学生として誇りを持ち、恥をかかないような態度や姿勢で日常生活を過ごそうと決意しました。

◇ 継続奨学生からの便り(抜粋)

鹿児島大学4年 史 可撃(内モンゴル)

鹿児島での学生生活も残り一年となり、事務局からアドバイスをいただいたおかげで順調に内定をいただくことができました。

これからの1年間は大学生活4年間で最も多忙で体力的にも精神的も厳しくかつ最も充実した年だと思っています。卒業論文、卒業設計、2級と1級建築士資格の試験の勉強があります。研究室で研究に没頭する時間が長くなるにつれて、ともすれば夜型になりがちとなります。規則正しい生活を送りたいと思っています。

◇ 鉄筋の加力実験をやっています。体を

つくり始めました。1週間前から本番の実験が入ります。今まで書いた内容をよく理解でき、実験の大切さを感じました。大学生活の最後の1年、研究、勉強を一杯頑張りたい、思い出すと宝石のように貴重で輝く時間だとするつもりです。

◇ 鹿児島大学大学院2年 鶴田篤弘

奨学生として2年目を迎え、学生生活の締めくくりに年として、大きく躍進する年にできればと考えています。

現在、ホタルの発光タンパク質の医療分野等への応用を目指して研究を行っています。研究はホタルの発光タンパク質に対して選択的に結合する抗体を利用して、発光活性を制御することを目的とした研究ですが、これに加え、ホタル生物発光の発光色を黄緑色から赤色など、様々な色に変化させる研究やホタルゲノムの解析等も行っています。複数の研究を進めながら授業や研究室の運営、後輩の育成に励んでおり、充実した学生生活を送っています。昨年は、「大学院の授業すべてでA評価を獲得」「学術会議で発表し優秀賞受賞」といった高い目標の達成に向けて努力することの面白さと、それを達成した時のやりがいや強く認識することができました。

貴財団の温かいご支援によりこれまでにない飛躍の年となりました。今年度は財団奨学生として自覚を持ちながら継続的に努力し、また良い知らせを届けられたいと思っています。

◇ 伊敷小からの便り

毎年図書贈呈をしている伊敷小学校図書委員会の子供達から残暑見舞いの便りが寄せられました。



県内高校生へ図書の贈呈

次代を担う若者に先人たちの足跡を著した書に触れ、何事にもチャレンジする気概をもって成長して欲しいとの思いから、県内公立高校へ図書「評伝 長沢鼎(渡辺正清著)」を贈呈しました。わずか13歳で薩摩藩英国留学生として渡英後、アメリカ大陸に渡りカリフォルニアのワイン王として成功した長沢鼎の生涯を保存資料や取材記録等により丹念に書かれています。



県教育長室で贈呈式を行い、東條教育長からは毎年の図書贈呈に感謝の言葉をいただきました。

研究助成金進捗状況報告会

29年度、2ヶ年にわたる研究について助成支援するとして決定した鹿児島大学の5件の研究テーマの進捗状況と、最終年度の助成金額を決定する為の報告会を4月27日開催しました。



各研究テーマの代表者から、研究も順調に経過しているとの報告がなされました。出席した役員からは「申請計画どおり、いずれの研究も順調な成果が期待できそう。」と好評でした。

研究助成金成果報告会の開催

28年度採択の2年継続助成したテーマのうち、顕著な成果が認められた2件について、11月28日報告会を開催、役員19名の参加がありました。ホタルや卵白の身近な資源に関する有効活用化の報告に、出席の皆さんから期待の声が寄せられました。

\*加藤助教「南九州や島嶼地域に自生する陸生・水生ホタルの遺伝子多様性解析」

\*中里准教授「新規卵白粉末の開発と機能強化に関する研究」

平成29年度奨学生終了式・進路

3月、4名の奨学生が卒業しました。それぞれの進路でなご一層、ご活躍ください。進路先は次のとおりです。

- ▽進級 鹿児島工学院専門学校専攻科へ
- ▽就職 (株)東条設計、日産化学工業(株) 鹿児島大学へ



◎事務局より、「西郷隆盛」の著者来社(8月)



偉人の顕彰事業で県内全高校へ贈呈した図書「西郷隆盛」の著者上木嘉郎氏が米盛理事長を訪問されました。薩摩藩の独自の青少年教育「郷中教育」で育った偉人達が輩出・活躍したことを思うと、現代の子供達は群れを作る機会が少なくなっており、次世代のリーダーが育ちにくい状況にあることなどを熱く話されました。

卒業生事務局来訪(8月)

終了生の折田さんが、就職先の先輩方に指導を受けながら、2級建築士の取得を目指して努力していることなど報告に来局。

890-0014 草牟田二丁目二一七 米盛誠心育成会事務局 神田・水元

☎(099)226-0205 E-mail kanda@yoneg-net.co.jp